

第69回日本体力医学会大会に参加して

Participating in the 69th Congress of the Japanese Society of Physical Fitness and Sports Medicine

平塚 和也

Kazuya HIRATSUKA

体力医学会大会の概要について

日本体力医学会は、運動生理、栄養学、体育学、スポーツ心理学、公衆衛生及び社会医学などの専門家並びに研究者が一堂に会した学際的な学会である。また、日本体力医学会は、1949年（昭和24）に設立されて以来65年の歳月が流れ、今日では日本医学会第39分科会として約5000人の会員をようし、健康科学、スポーツ医学及び体力医学に関わる研究をリードしている。

第69回日本体力医学会大会は、2014年9月19日（金）から21日（日）の3日間にわたって長崎市の長崎大学文教キャンパスで開催された。大会長は、菅原正志（西九州大学教授、長崎大学名誉教授）であった。今大会テーマは、「長崎游学～豊かな身体を支える体力医学～」が掲げられ、今大会のキーワードは予防医学、体力、栄養、環境適応、高齢者の運動、熱中症、オリンピック、東日本大震災運動支援であった。プログラムは、会長講演、特別講演2演題、県民公開講座、学会賞受賞論文表彰および講演、シンポジウム15演題、ワークショップ6演題（実技3演題）、ランチョンセミナー4演題（大塚スポーツ医科学賞講演を含む）、ACSM-JSPFSM交流シンポジウム、国際

セッション、一般研究発表804演題（口頭発表287演題ポスター発表517演題）、持久走大会、機器等展示より構成されていることが主催者から報告されている（写真1）。

本研究室からの発表について

本大学身体運動学研究室からは、筆者と角田直



写真1 学会会場

也先生（体育学部教授）及び田中重陽（政経学部講師）が参加した。筆者は、大会初日の9月19日（金）にポスター発表において、異なる伸張性収縮速度による筋力トレーニングの効果について報告した。要旨は以下の通りである。

本研究では、伸張性による筋力トレーニングが伸張性及び短縮性収縮での筋出力特性に及ぼす影響について検討した。

被検者は成人男性29名であり、その被検者を伸張性のトレーニング群として3群（30deg/sec SG：6名、120deg/sec MG：9名、240deg/sec FG：8名）に分けた。また、6名（CG）を対象群とした。トレーニング前後に、等尺性、短縮性及び伸張性により30、60、120及び240deg/secでの肘関節筋力をBiodex System IIIを用いて測定した。トレーニング期間は8週間とし、週3回、1日3セットで実施した。トレーニング前後における等速性筋力は、SGで伸張性の120及び60deg/secを除いて、全ての速度で有意な増大を示した。その増加率はSG、MG及びFGの間に、全ての伸張

性収縮速度で有意な差異が認められた。FGの増加率は他の群に比較して全てにおいて高い値を示す傾向がみられた。したがって、異なる速度での伸張性収縮トレーニングは、伸張性及び短縮性収縮での特異的な筋出力特性を示すことが示唆された。

1時間のポスター発表中に、参加者からの質問やアドバイスが数多くなされ、大変有意義な発表であった。

第69回日本体力医学会大会を終えて

第69回日本体力医学会大会では、スポーツ医学及びスポーツ生理学に関する報告が比較的多くみられ、今日の研究動向を実感した。

今大会に参加して最も強く感じた点は、著名な先生方の講演、シンポジウム、一般発表などを聞くことができ、どの場面においても非常に活発な意見交換がなされていたことである。

こうした大規模な学会において筆者が発表できたことは貴重な経験であり、今後の研究活動で活かしていきたいと考えている（写真2、3）。



写真2 発表ポスター

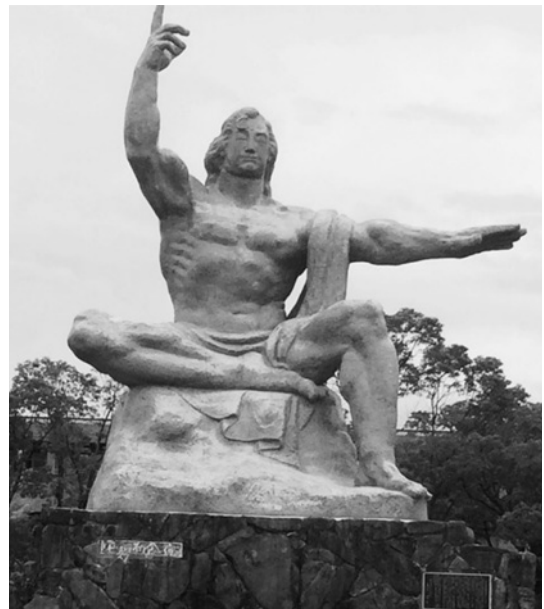


写真3 平和公園